

科目名	法学 I	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法律の初学者にとって、これから専門的な学習を行う上で必要となる基礎知識及び法的思考能力（論理的思考能力）を学ぶ。授業では、法とは何かといった抽象的な内容を含めて取り扱うものであるが、身近な事例などを通じて、単なる暗記ではなく、法の役割を理解できるよう進める。			
授業目的・到達目標	法律を学ぶ上で必須となる基礎知識及び法的思考能力を身につけることを目的とする。判例や学説の議論における法的な問題点に対し、自分なりに論理的に考え、理解できるようにする。			
履修条件	特にないが、積極的に授業に参加することが求められる。			
授業方法	原則として講義形式で授業を行うが、発言を求める場合がある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	出席状況、発言の積極性及びレポートによって判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内で指示する。		
参考書	指定しない。			
オフィスアワー	水曜の4限、本館6階 予めメールにて連絡すること tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	事前に、六法の条文を読むなどして、法律の文に慣れておく。
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	法の必要性や社会的意義を踏まえ、法学がどういった事柄を対象としたものか理解する。
2	事前学習	社会規範としての法にはどのような形式のものが存在するか確認する。
	授業内容	法とは何か
	事後学習	法以外にも社会規範が存在するのか、その社会規範は法にどのような影響を与えるものか理解する。
3	事前学習	法の構造について、公法・私法・国際法とは何かを確認する。
	授業内容	法とは何か
	事後学習	各法がどのような分野を規律しているものか整理し、それぞれの役割を理解する。
4	事前学習	前回までの授業で扱った法の社会における役割を確認しておく。
	授業内容	法学の学習について
	事後学習	実際に授業で扱った条文の読み方や適用の仕組みを自分の言葉で説明できるようにする。

5	事前学習	法源という概念がどのようなものか確認する。
	授業内容	法源
	事後学習	成文法とは何か，具体例や役割について理解する。
6	事前学習	成文法以外の法源として何が存在するか確認する。
	授業内容	法源
	事後学習	成文法以外の法源の役割と成文法との関係を整理しておく。
7	事前学習	強行法規，任意法規，実体法，手続法，一般法，特別法の概念を調べておく。
	授業内容	法の分類
	事後学習	各法の分類を行う意義及び各法の性質の違いを理解する。
8	事前学習	前回の授業で扱った内容を理解している確認する。
	授業内容	法の分類
	事後学習	各法律が実際の事案ではどのように適用されているのか，順を追って理解する。
9	事前学習	私人間に適用される法律を整理しておく。
	授業内容	私人間における法適用
	事後学習	私人間における法の性質や目的を理解する。
10	事前学習	私人間における法の適用と公法の適用ではどのような差異があるか確認しておく。
	授業内容	私人間における法適用
	事後学習	私人間における法の適用では，どのような特徴があるか，公法の場合と比較して理解する。
11	事前学習	法律の適用について，不明確な条文があった場合にはどのような問題が生じるか考えてみる。
	授業内容	解釈論と立法論
	事後学習	解釈論の必要性と具体的な考え方を理解する。
12	事前学習	ルールを作る際にどのようなことを気を付けなければならないか考えてみる。
	授業内容	解釈論と立法論
	事後学習	解釈論と立法論の関係を自分なりに考えてみる。
13	事前学習	法で認められた権利がどのように実現されるのか，文献で確認しておく。
	授業内容	法の実現
	事後学習	裁判における法の実現の必要性と制度を理解する。
14	事前学習	裁判所のホームページなどで，裁判所の手続を確認してみる。
	授業内容	法の実現
	事後学習	裁判所における手続を具体的に理解し，各段階でどのような意義があるのか考えてみる。
15	事前学習	前期の授業での不明点を確認しておく。
	授業内容	まとめ
	事後学習	法的思考能力を実践する。